

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

94

近年、台風や暴風雨、大雪、ゲリラ豪雨などの気象現象により我々の日常生活が深刻な影響を受けることが珍しくない。より詳しい気象情報をいち早く国民に伝えるため、2015年7月7日にひまわり8号衛星の運用

が始まった。となったのである。我々は「ひまわり」分前に撮像された地球の姿を「だれもが、いつでも広く利用されている。日常生活の中で、いつでも宇宙からの地球（日本）の姿を確認できる安心感こそが、ひまわりリアルタイムが目指すところである。気象ビッグデータを必要としているのは日本だけではない。フィリピンや台湾などは毎

## 気象衛星 ビッグデータ アプリで地球の姿確認

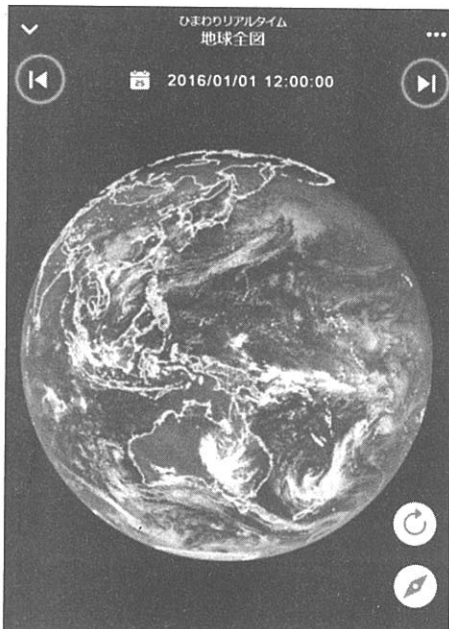
総合アストロベッド研究開発  
推進センター・研究統括

村田 健史

95年京都大学博士課程修了後、愛媛大学教員を経て、現職。専門は大規模可視化技術、高速データ通信技術、映像伝送技術およびIoT技術とその融合による国際連携、地域連携。博士（工学）。



科学技術・大学



ひまわりリアルタイム  
(<https://himawari8.nict.go.jp>)

年大きな台風被害を経験しており、インドネシアやマレーシア、シンガポールなどは森林火災による大気汚染が深刻である。中国は黄砂以外にも近年微小粒子状物質（PM2.5）などによる健康被害が心配されている。ひまわりリアルタイムは、これらアジア諸国においても活用が期待されている。実際、イトの運用を開始した。情報通信研究機構が運用する高速ネットワークJGN国際回線により、今日も衛星ビッグデータがリアルタイムにアジアの国々に届けられている。（火曜日に掲載）